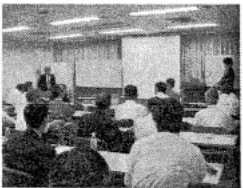


林教授「全国の連携を」

共同研究テーマを発表

東京コンクリート診断士会（小野定会長）は二日、中野サンプラザで第四回技術セミナーを開き、約四十名が参加した。写真。

アワーズテックの椎名博氏が「蛍光X線分析法を用いたコンクリート構造物の診断技術」の題で



講演した。同社は東京大學生産技術研究所と共同で「OURSTEX101FA」を開発した。蛍光X線は主に元素分析で用いられている手法で、汚染土壌や金属アクセサリー、考古学分野で用いられている。この手法をコンクリート構造物の診断に用いることでコンクリート中の塩分濃度を分析できる。従来から使用されている電位差測定法との相関関係も高く、測

定速度も速いのがメリット。この方法を利用する際の留意点は構造物を直接検査する場合、X線作業主任者の資格が必要なほか、同製品を購入する場合、労働基準監督署への届出が必要となる。

青木俊朗・NTTインフラネット担当部長が「光ファイバーセンシングを用いたコンクリート構造物のヘルスマニタリング」の題で講演した。同社はNTTの土木技術者が集結した会社。青木部長は光ファイバーを用いたコンクリート構造物のモニタリング事例を紹介した。

情報提供として、林静雄・東京工業大学教授が「安全・安心を材料の観点から推進するセキユアマテリアル」の講演を行った。これは同会と東工大が行っている共同研究のテーマで、全国に組織されている診断士会が連携することでコンクリート構造物の維持管理を横断的に行う目的。林教授は東京都行ったコンクリート強度と中性化速度の相関性について解説し、FC一八N以下のコンクリートはFC一八N以上のコンクリートと比べ中性化速度が早くなる傾向が強い」とした。

東京都の調査によると、一九七〇年代と八〇年代に建てられたコンクリートは、設計強度が同じでも硬化後のコンクリート強度は平均約3Nの違いが出るという。

続いて石川裕夏・福井県コンクリート診断士会長が同会の取り組みや北陸地区のコンクリート構造物の劣化・診断などを紹介した後、全国のコンクリート診断士会の連携充実を訴え、林教授が「共同研究費を全国のコンクリート診断士会の交流に役立ててほしい」と述べた。その後、小野会長ら診断業務に関する情報提供を行った。